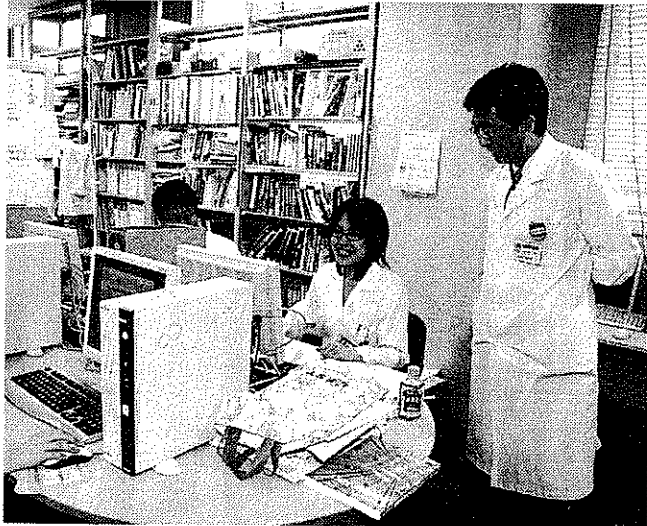


医師不足が社会問題になって
いる。「医学部から毎年将来の
医師たちが卒業しているのに、
なぜ」と思っていた折、医学部
の「卒後臨床研修センター」副
センター長の江村正准教授と話
をする機会を得た。今回は平均
的な「臨床医が誕生するまで」
を書いてみる。

まず医学を学ぶためには、医
学部に入学する。ここで六年間
の教育を受け、卒業後、医師國
家試験を受ける。(こゝまではこ
なたもご存じだと思ふ。先生の
話によると國家試験に合格した
人は、厚生労働省に申請をして
「医籍」に登録する。晴れてこ
れで医師誕生、と思つたら、ま

佐大フステッチ



研修医と談笑する江村正准教授(右)

臨床医誕生まで 研修先自分で選択

だまた先があった。
一〇〇四年から、診療に従事
する者は「義務」として二年以
上の臨床研修を受けねばならな
い。以前は「努力義務」であつ
た。研修は「医師としての人格
を養い、将来専門とする分野だ
けでなく一般的な診療をする際
に頻繁にかかわる負傷または疾
病に適切に対応できるように基
本的な診療能力を身に付ける」
ことを到達目標としている。

まさに、私が風邪を引いた時
などに診てもらつた医者さまに
なるための研修である。この研
修中の報酬は、無給または薄謝
程度だったが、現在は平均三十
万円程度の給与が支払われる。
研修する病院は、出身大学の付
属病院だけでなく、厚生労働省
が指定する病院も含まれる。研
修医は、インターネットの普及
で研修先を広く自分で選択でき
るようにもなった。

江村先生の話は興味深く教育
論、子育て中の女性医師への支
援など三時間にも及んだ。この
続きは次回で。

(佐賀大学理事・北島悦子)
※次回は十二月八日の予定で
す。